

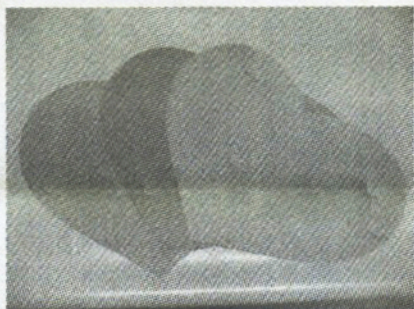
塩化ビニルの端材が意匠を凝らしたシート製品に生まれ変わる。塩ビに特化したリサイクル事業を展開する光洋ビニール（大阪市生野区、金沢辰男代表）は、大阪近郊の加工場から塩ビの端材を回収。外部の業者に委託して加工したりサイクルシートを建設現場の養生シートなどとして販売したり、ラミネートして2次加工の素材となるマットにしたりしている。

同社は塩ビ製品を軸した再加工メーカー。1958年の創業以来、大阪の地でリサイクル事業を営み続けてきた。リサイクル事業のなかでこだわりを持つのが、製品の形状を柔軟に加工する独自技術。マットの厚みを最大5層で0.5〜5mmまで

塩ビ端材をリサイクル

光洋ビニール

調整できるラミネート加工や、縦・横・斜めに50種類以上の押し模様を配するエンボス加工



加工技術を駆使して形成したマット製品

養生シートやマットなど、 独自技術で柔軟加工

などの技術は同業でも極めて珍しい。

打ち抜きや、スリッターにより裁断することで業務用デスクマットなどに展開しているほか、特殊加工を施せば靴類の裏地に使用するレザーなどにも再生できる。

リサイクルされた製品群は、2010年に大阪府が府民に使用を推奨する「大阪府リサイクル製品」に認定されるほど、その技術は高く評価されている。

同社の金沢泰勲専務は14年、大阪で塩ビ加工業を営む若手経営者が情報を交換し合う組織「PVC next」に加入した。地域や同業とのつながりを強くすることで、引き続き新たなニーズを探索していく。